

イライジャ - ナンバー・フォー

奴隷制

Jeff Pippenger

2023-10-01

エリヤの証しは、三年半の間、彼の言葉によらなければ雨は降らないと彼が宣言したときに始まる。

ギレアデの住民の中のテシベ人エリヤはアハブに言った。「私が御前に立って仕えるイスラエルの神、主は生きておられる。私の言葉によらなければ、この数年の間、露も雨も降らない。」列王記上 17:1

その三年半は、538年から1798年までのテアテラの歴史を表している。1798年、干ばつの期間の終わりに、エリヤはアハブをカルメル山に呼び出した。第一の天使のメッセージは、1844年10月22日に神の裁きの時が来たと告げた。第一の天使のメッセージは、アハブに全イスラエルをカルメル山に召集するよう命じることだった。

アハブがエリヤを見たとき、アハブは彼に言った。「おまえがイスラエルを悩ませている者なのか。」すると彼は答えた。「私がイスラエルを悩ませたのではない。悩ませているのはあなたとあなたの父の家だ。あなたがたは主の戒めを捨て、あなたはバアルに従っているからだ。今、使者を送り、イスラエルのすべての者をカルメル山に、そしてバアルの預言者四百五十人、さらにイゼベルの食卓で食べている林の預言者四百人を、私のもとに集めなさい。」そこでアハブはイスラエルのすべての子らに使いを送り、預言者たちをカルメル山に集めた。エリヤはすべての民の前に進み出て言った。「いつまであなたがたは二つの意見の間によろめいているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神であるなら、彼に従え。」しかし民は彼にひと言も答えなかった。列王記上 18:17-21

全イスラエルはエリヤの時代にカルメル山に集められたが、このことは、黙示録3章の三つの教会が共に集められたときのウィリアム・ミラーの歴史を象徴していた。テアテラの教会によって表される、イゼベルの迫害を逃れるために538年に最初に荒野へ逃れた教会は、ウィリアム・ミラーによって表されるエリヤのメッセージに直面することになる世代として、荒野から出てきた。そのとき地から上って来た獣は口を開き、彼女に対して千二百六十年のあいだ送り出されてきた迫害の大水を飲み込んだ。

そして地は女を助け、地はその口を開き、竜がその口から吐き出した洪水を飲み込んだ。ヨハネの黙示録 12:16.

預言において「国が語る」とは、その立法府および司法府の行為を指す。そして1789年、アメリカ合衆国はアメリカ合衆国憲法という神聖な文書を制定し、ヨーロッパの諸王と背教したカトリック教会の双方による迫害からの保護に必要な権利と自由を保障した。

「国家の発言とは、立法府および司法府の行為である。」『大論争』443頁。

1789年、聖書の預言においてアメリカ合衆国が第六の王国としての預言的役割を果たし始める直前には、それは小羊のように語っていたが、日曜法ときには竜のように語るだろう。

また、私は地から上ってくるほかの獣を見た。それには子羊のような二本の角があり、竜のように語った。黙示録 13:11

地の獣の始まりと終わりは、その語ることによって示される。1798年、アハブはイスラエルの民すべてをカルメル山に呼び集めた。そこでエリヤは、ヘブライ人の神とイゼベルの神のどちらが真の神であるかを、見ている者たちに証明するための試みを設けようとしていた。イゼベルにはバアルの預言者が四百五十人おり、林の預言者が四百人いた。偽りの神バアルは男神であり、偽りの神アシュタロテは女神であった。

その二種の偽預言者は政教一致を表している。預言において男女が共に表されるとき、女は教会を、男は国家を表すからである。エリヤは、女神と男神という偽りの神々、さらにアハブとイゼベルの結婚によって象徴される、政教一致という不聖な結合に立ち向かったとき、八百五十人対一人という圧倒的不利であった。教会と国家を体現するアハブとイゼベルは共和主義の角の墮落を、バアルとアシュタロテはプロテスタントの角の墮落を表している。

問題は、黙示録2章のテアテラに代表される墮落した宗教に対するエリヤの抗議であった。エリヤはプロテスタントを代表していた。というのも、プロテスタントの唯一の定義はローマに抗議する者だからである。エリヤの抗議は、墮落した国家と墮落した教会との不義な同盟によってもたらされる政教一致に対する抗議を表している。

しかし、あなたに非難すべきことがいくつかある。それは、自らを女預言者と称するあの女イゼベルを容認し、彼女が教え、わたしのしもべたちを惑わして淫行を行わせ、また偶像に供えたものを食べるようにさせているからである。わたしは彼女にその淫行を悔い改める猶予を与えたが、彼女は悔い改めなかった。見よ、わたしは彼女を床に投げ込み、また彼女と姦淫を行う者たちを、その行いを悔い改めないなら、大きな患難の中に投げ込む。黙示録 2:20-22。

食べることは、あなたが受け入れるメッセージを表し、「偶像にささげられたもの」というメッセージは、カトリックの教義、すなわち忌まわしい偶像礼拝の象徴そのものを表しています。暗黒時代の神の民は、カトリックの異教的教義の多く、特に太陽崇拝を受け入れるようになっていました。

姦淫は不法な関係であり、預言的には憲法が禁じるものの核心、すなわち教会と国家の結合を表している。アハブはイゼベルと不法な関係にあった。イスラエルの王として、彼は異教の王女と結婚してはならなかったからである。イエスはバプテスマのヨハネをエリヤだと認め、またヨハネも、彼の兄弟の妻であるヘロデヤと結婚したヘロデを戒めたとき、同じ聖ならざる関係に立ち向かった。

ヘロデは、兄弟ピリポの妻であるヘロデヤのためにヨハネを捕らえ、彼を縛って牢に入れた。ヨハネが彼に、「あなたが彼女をめとるのは律法にかなわない」と言っていたからである。マタイ 14:3、4

エリヤがアハブとイゼベルに対峙したことは、ヨハネがヘロデとヘロディアに対峙したことを予表していた。というのも、両者の関係はいずれも、教会と国家の不法な結合を表していたからである。両者は合わせて、教皇権（イゼベルとヘロディア）、国際連合を表す十人の王（アハブとヘロデ）、そして偽預言者を表すアメリカ合衆国（カルメルの偽預言者たちとヘロディアの娘サロメ）に立ち向かう、十四万四千人のエリヤのメッセージを表している。

カルメルにおける預言的な場面には、教会と国家の分離の原則を明記しているアメリカ合衆国憲法をエリヤが擁護することが含まれている。

アハブがエリヤを見たとき、アハブは彼に言った。「イスラエルに災いをもたらしているのはおまえか。」彼は答えた。「イスラエルに災いをもたらしたのは私ではない。むしろ、あなたとあなたの父の家だ。あなたがたは主の戒めを捨て、あなたはバアルに従ったからだ。」列王記上 18章17、18節

憲法は、共和主義とプロテスタントイズムという二つの角が常に互いに分離しているという原則を確立した。しかし、黙示録は、合衆国が最終的に竜のように語るのは、合衆国の背教的な諸教会が支配権を握り、背教的な政府と結びつくときであると示している。

しかし、「獣への像」とは何か。それはどのように形づくられるのか。像は二本の角を持つ獣によって作られ、獣への像である。また「獣の像」とも呼ばれる。したがって、その像がどのようなものか、またそれがどのように形づくられるのかを知るためには、獣そのもの-すなわち教皇制-の特性を研究しなければならない。

初代教会が福音の単純さから離れ、異教の儀式や慣習を受け入れて墮落したとき、教会は神の霊と力を失った。そして人々の良心を支配するために、世俗の権力の支持を求めた。その結果として現れたのが教皇制であり、教会は国家の権力を支配し、それを自らの目的、特に「異端」を処罰するために用いた。合衆国が獣の像を形成するためには、宗教勢力が世俗政府を支配し、国家の権威が教会によっても自らの目的を達成するために用いられるようにしなければならない。The Great Controversy, 443.

カルメル山のエリヤはミラー派の働きを表していた。そしてミラー派は、最近カトリックの影響下から出てきたが第一の天使の光を拒むことによってローマへ戻る道を選んだ者たちと対照的に、真の預言者として確立された。したがって、1844年春の第二の天使のメッセージは、プロテスタント諸教派をバビロンの娘たちと見なすこと、そしてミラー派を真正のプロテスタントの角とすることから成っていた。

神は、古代イスラエルをエジプトの奴隷状態から導き出し、紅海を渡らせたとき、天からのマナによる試練から始まる段階的な試練の過程を始められた。

「歴代に蓄えられた光が、私たちの上に輝いている。イスラエルの忘却の記録は、私たちの教訓のために保存されてきた。この時代に、神はあらゆる国民、部族、言語から、ご自身のために民を集めるために御手を伸ばしておられる。再臨運動において、神はご自身の嗣業のために、イスラエルの民をエジプトから導き出されたときと同じように御業を行ってこられた。1844年の大失望において、御自分の民の信仰は、紅海におけるヘブライ人の信仰と同様に試みられた。」『Testimonies』第8巻、115、116.

1844年10月22日の失望は天の聖所の理解へと導き、その理解は、ちょうどマナに関する試練が古代イスラエルにとって十に及ぶ一連の試練の最初となったのと同様に、安息日に関する試練をもたらした。

主は1847年、兄弟たちが安息日にメイン州トプシャムで集まっていたとき、私に次の幻を与えられた。

私たちは格別な祈りの霊を感じた。私たちが祈っていると、聖霊が私たちの上を下った。私たちはとても喜んだ。まもなく私は地上の事柄を忘れ、神の栄光の幻に包まれた。一人の天使がすみやかに私のもとへ飛んで来るのを見た。彼はすぐに私を地から聖なる都へ運んだ。その都で私は神殿を見て、そこに入った。私は第一の垂幕に至る前に扉を通り抜けた。この垂幕が上げられ、私は聖所に入った。そこで私は香の祭壇、七つのもし火のある燭台、そして供えのパンの置かれた机を見た。聖所の栄光を見たのち、イエスが第二の垂幕を上げ、私は至聖所に入った。

至聖所で私は契約の箱を見た。その上部と側面は純金であった。箱の両端には美しいケルブがいて、その翼を広げてそれを覆っていた。彼らの顔は互いに向き合い、うつむいていた。天使たちの間には金の香炉があった。天使たちが立っている箱の上には、きわめてまばゆい栄光があり、そこは神が住まわれる御座のように見えた。イエスは箱のそばに立っておられ、聖徒たちの祈りが御もとに上ると、香炉の香が立ちのぼり、イエスはその香の煙とともに彼らの祈りを御父にささげられた。箱の中には金のマナの壺、芽生えたアロンの杖、そして本のように合わせ閉じることのできる石の板があった。イエスがそれらを開かれると、私はそこに神の指で書かれた十戒を見た。一方の板には四つ、もう一方の板には六つが書かれていた。最初の板の四つは、他の六つよりもいっそう明るく輝いていた。だが第四の、すなわち安息日の戒めは、それらすべてにまさって輝いていた。安息日は神の聖なる御名をあげて守るために聖別されていたからである。聖なる安息日は栄光に満ちて見え、その周りを栄光の後光が取り巻いていた。私は、安息日の戒めが十字架に釘づけにされていなかったことを見た。もしそうであったなら、他の九つの戒めも同様であり、私たちは第四の戒めを破るのと同じようにそれらすべてを破る自由があることになる。私は、神が安息日を変えられていないことを見た。神は決して変わらないからである。だが教皇はそれを週の第七日から第一日に変えてしまった。彼は時と律法を変える者であったからである。初期の著作、32。

1798年にプロテスタントは暗黒時代を脱し、ダニエル書の封印が解かれると、聖書の予言における第六の王国、すなわち黙示録13章の二本の角を持つ地の獣が、予言史の中を行進し始めた。プロテスタント主義は聖なる文書である聖書の上に築かれ、共和主義は聖なる文書である憲法の上に築かれた。神は荒野にあるご自身の教会を暗黒時代から導き出されたが、エジプトでの奴隷の時代の古代イスラエルがそうであったように、安息日の戒めは忘れられていた。イスラエルがシナイで律法が与えられるところへ向かう途上で紅海を渡ったように、現代のイスラエルは、律法が再び明らかにされることになる1844年10月22日へ向かう途上で大西洋を渡った。主は再び、ご自分の律法と予言的啓示の預かり手となり、プロテスタントの外套を受け継ぐ民を起こしておられた。古代イスラエルには、ご自分の律法の預かり手としての務めの象徴として十戒の二枚の石板が与えられ、現代イスラエルには、予言の御言葉の預かり手としての務めの象徴としてハバクク二枚

の板が与えられた。

現代のイスラエルは、第三天使のメッセージを世界に掲げるにあたり、二組の二枚の石板をとともに携えるべきであった。この第三天使のメッセージは、プロテスタントの衣鉢を継ぐ者たちが宣べ伝えるメッセージである。暗黒時代から出てきたプロテスタントは、古代イスラエルが紅海を渡ったときと同様に、その時点では不完全であった。彼らは「聖書のみ」という標語を掲げてはいたが、ローマ・カトリックの異教的教義（偶像にささげた物）を何世紀にもわたって食してきたため、神のことばの理解は不完全であった。神は、真のプロテスタントが、「律法と預言者」-すなわち、神の民のわざと神の御品性の双方を表す二組の二枚の石板-に象徴される神のことば全体を体現する者となるように計画された。第一の天使の働きは、神の律法とその預言のことばの双方の担い手となる、真のプロテスタントの民を生み出すことであった。

神はこの時代に、古代イスラエルをお召しになったと同様に、ご自分の教会を地上にあって光として立たせるよう召された。真理という力強い大なた、すなわち第一、第二、第三の天使のメッセージによって、神は彼らをご自身の聖なる御もとに引き寄せるために、彼らを諸教会およびこの世から分離された。彼は彼らを御自分の律法の保管者とし、この時のための大いなる預言の真理を彼らに委ねられた。古代イスラエルに委ねられた聖なる神託と同様に、これらは世界に伝えるべき聖なる委託である。黙示録14章の三天使は、神のメッセージの光を受け入れ、地の隅々に至るまで警告を響かせるために神の使者として出て行く人々を表している。『証言』第5巻、455頁。

二組の二枚の板の保管者とされている者たちが宣べ伝えるべき警告は、カトリックの印を受けることに反対するものである。その抗議は、アハブとイゼベルの不法な関係に対するものであり、カルメル山でエリヤによって示された。シナイ山で石の二枚の板が与えられたことは、1842年から1849年の歴史においてハバククの布の二枚の表が与えられることを予表していた。ハバククの二枚の表は、神とそのプロテスタントの民との契約関係の象徴である。これらの表を拒むことは、古代イスラエルが神の律法を拒んだのと同じである。

ミラー派は至聖所に入り、安息日の光を受けたが、試練の過程はまだ終わっていなかった。同時に、共和主義の角もまさに同じ歴史の中を進んでいた。そして両方の角は、1863年に、共に進む歩みの中で一つの節目に到達することになる。

ミラーのエリヤのメッセージは、プロテスタントの「角」を確立することを意図した、段階的な浄化の過程をもたらした。同じ歴史において、共和主義の「角」も段階的な政治的発展の過程に関与していた。両方の角は同じ「地の獣」に属しているので、地の獣の歴史全体を通じて歩みを一にして進まなければならない。

地の獣の共和主義の角の最初の預言的特徴は、1789年に憲法を発効させることを「語る」という行為であった。1798年（ダニエル書が封印を解かれた終わりの時）に、地の獣は聖書の預言における第六の王国として初めて語ることになる。1798年は、聖書の預言における第六の王国としてのアメリカ合衆国の始まりであり、1798年に地の獣の歴史の初めに起こったその「語り」は、第六の王国が最後に語る時の型となり、その時は竜の声として表されている。1798年にアメリカ合衆国の共和主義の角によって制定された法律を

考えるとき、アメリカが竜のように語るときに日曜令と結びついて制定される法律の型を見ることを期待すべきである。以下の四つの法律を考察するにあたり、1798年に可決されたその四つの法律に、アルファとオメガの預言的なしるしがあるかどうか、自問してほしい。

1798年、アメリカ合衆国は「外国人・治安諸法」として知られるいくつかの重要な法律を制定した。これらの法は、連邦党が多数を占めていた連邦議会で可決された四つの法律から成り、アメリカ合衆国第2代大統領で、ジョージ・ワシントンの副大統領を務めたジョン・アダムズによって署名されて成立した。

帰化法：この法律は、移民が米国市民になるための居住要件を5年から14年へと延長した。これは、野党の民主共和党にしばしば同調していた最近の移民の影響力を抑えることを主な目的としていた。

友好外国人法：この法律は、平時においてアメリカ合衆国の安全保障に対する脅威と見なされる非市民を、大統領が国外追放する権限を与えた。大統領が危険と判断したいかなる非市民も拘束し、国外追放できるようにした。

敵国人法：この法律は、アメリカ合衆国と交戦中の国の国民の逮捕、抑留、および国外追放を規定した。1790年代末の緊迫した情勢の中、予防的措置として制定された。

治安法：これは、外国人および治安に関する諸法の中で最も物議を醸したものである。政府またはその公職者に対する「虚偽で、スキャンダラスで、悪意に満ちた」文書を、彼らの中傷したり評判を落としたりする意図で公表することを犯罪とした。批判者は、これを言論および報道の自由への直接的な攻撃とみなした。

外国人・治安諸法は非常に物議を醸し、これらの法律が憲法上の基本的権利に違反し、自分たちの政党を標的にしていると考えた民主共和党から強い反発を招いた。彼らは、言論と報道の自由を保障する合衆国憲法修正第1条を侵害するものだと主張した。やがて、これらの法律は1800年の選挙の一因となり、トーマス・ジェファソンと民主共和党が大統領職と連邦議会で勝利を収め、治安法の廃止につながった。

民主共和党は、これらの法律が憲法によって保障されている基本的権利に違反していると考え、また、これらの法律が対立する政党を狙い撃ちにしているとも考えていた。これらの法律が廃止されたり、のちに失効したことは問題ではない。アルファとオメガは、始まりによって終わりを示す。これらの法律が制定され、あるいは「語られて」法となった歴史において、連邦党に対抗したのは民主共和党と呼ばれる政党であった。民主共和党の変遷は、最終的に共和党を生み出した。それは、主として奴隷制反対の立場を基盤に結集した政党である。

歴史家たちは、奴隷制度という問題を土台とした内戦のちょうど中間点が1863年であると見なしている。1863年はまた、プロテスタントの角の新たな旗手たちにとっての道標でもあり、彼らはその時、天使がミラーに与えた最初の時の預言（レビ記二十六章の「七つの時」の預言）を拒否した。「七つの時」の預言が、レビ記の前の章に定められている奴隷制の律法に基づいているということが、ただの偶然にすぎないと言えるだろうか。「七つの時」によって示される「のろい」とは、もし二十五章の契約の律法に背くなら、

イスラエルは紅海で旅路を始めたときにそこから救い出された奴隷状態へと再び戻り、そのことによって歴史を終えることになる、という宣告であった。

1798年から1863年にかけて、民主共和党という政党は一連の粛清ないし動揺を経験した。1798年以降、特に1840年8月11日から1863年にかけて、ミラー派運動は一連の粛清と動揺を経験した。

アメリカ合衆国の初期政党の一つである民主共和党は、今日存在する共和党へと直接移行したわけではありません。むしろ、時を経る中で度重なる変化や分裂を経験し、その結果、共和党が成立する以前にいくつもの異なる政党が生まれることになりました。

トーマス・ジェファソンやジェームズ・マディソンと結び付けられることの多い民主共和党は、連邦党に対抗して18世紀末に結成された。民主共和党は、憲法の厳格な解釈、州権、そして農業の利益を支持した。

しかし、1820年代に入ると、民主共和党は地域や思想の違いに沿って分裂し始めた。主な分裂は「良き感情の時代」（1817年～1825年）、すなわちジェームズ・モンロー政権に対する強力な反対勢力が欠けていた時期に起こった。この政治的平穩の時期は、民主共和党の衰退に寄与した。党はやがていくつかの派閥に分裂し、次の政治勢力へと発展していった。

民主党：1829年に第7代大統領となったアンドリュー・ジャクソンの支持者たちが、民主党を結成した。ジャクソン派の民主党員は、強力な行政府、西方拡張、そして白人男性の選挙権拡大を支持した。

国民共和党：この党はアンドリュー・ジャクソン政権への反発を受けて結成され、その後、他の反ジャクソン派と合流してホイッグ党となった。国民共和党は一般に、強力な連邦政府と経済開発をより支持していた。

反フリーメイソン党：1820年代に登場した短命の政党で、主に秘密結社フリーメイソンの影響力への懸念を受けて結成された。旧民主共和党員の一部を吸収した。

ホイッグ党：1830年代に結成され、ホイッグには旧国民共和党員、反フリーメイソン党員、その他の反対勢力が含まれていた。彼らはジャクソン派の政策への反対、強力な連邦政府の支持、産業・経済の発展の推進を特徴としていた。

現代の共和党は、奴隷制をめぐる地域対立の激化に対する直接の対応として1850年代に創設された。旧ホイッグ党員、反奴隷制の民主党員、自由土地党員、そして新たな領土への奴隷制拡大に反対する人々が結集した。共和党最初の大統領候補であるジョン・C・フレモントは1856年の選挙に出馬し、党として初めて当選した候補であるエイブラハム・リンカーンは1860年に選出された。したがって、共和党は民主共和党の伝統とは別個に誕生し、アメリカ政治史において独自の軌跡をたどった。

1860年までに、共和党は初の大統領を誕生させた。それは奴隷制に反対する諸政党の連合を基盤としていた。1863年、奴隷解放宣言は「語る」ことによって奴隷制を存在しないものにした。1863年、当時共和党によって代表されていた共和主義の角は「語る」ことによって奴隷制を存在しないものにし、一方でプロテスタントの角は運動ではなくなり、セ

ブンスデー・アドベンチスト教会となった。ミラー派の運動は1863年5月に法的かつ公式に終わり、その年にモーセの誓い（奴隷制の預言）は退けられた。耳ある者は聞くがよい。

ここで、預言者ダニエルがそう呼んだ「モーセの誓い」について、簡単に概観しておくのは有益かもしれません。

まことに、イスラエルのすべてはあなたの律法に背き、そむいて離れ去り、あなたの御声に聞き従いませんでした。それゆえ、神のしもべモーセの律法に記されている呪いと誓いが私たちの上に注がれました。私たちが神に対して罪を犯したからです。ダニエル書 9:11

神の御言葉を研究するにあたり、ガブリエルと他の天使たちに導かれたウィリアム・ミラーは、まずレビ記二十六章の「七つの時」へと導かれた。ミラーの証言によれば、彼は聖書の研究を創世記から始めたので、当然、ダニエル書八章十四節の二千三百年に至るよりずっと前にレビ記に達した。彼が用いたのは聖書とクルーデンのコンコルダンスだけであった。

クルーデンのコンコルダンスには、欽定訳聖書の英語訳のもとになったヘブライ語やギリシア語の語への参照がない。ミラーは、研究している箇所「文脈」を、語や聖書の一節の理解を導く指針とした。彼の「七たび」の理解に関して言えば、レビ記26章の「七たび」の文脈は25章であることがきわめて容易にわかる。

第25章は、土地の安息、ヨベルの年、そして奴隷に関する規定を概説している。第25章の規定は「神のしもべモーセの律法」の一部であり、従えば祝福を、従わなければ「呪い」をもたらす。第26章では、「七倍」の呪いは2,520年に相当し、土地の安息の規定と奴隷制の原則という明白な文脈の中で示されている。第26章では、その罰は「わたしの契約の争い」と呼ばれている。

それゆえ、わたしもまたあなたがたに敵対し、あなたがたの罪のために、なお七倍に懲らしめる。わたしはあなたがたの上に、わたしの契約の仇を討つ剣をもたらす。あなたがたが自分の町々のうちに集められるとき、わたしはあなたがたの中に疫病を送る。そして、あなたがたは敵の手に渡される。レビ記 26章24、25節。

文脈からすると、神が「争い」を抱いておられる「契約」とは、先に二十五章で言及された契約のことです。「七度の罰」は神の「契約」の「争い」と呼ばれ、そこに付随する「呪い」とは、イスラエルが「彼らの手に引き渡され」敵の手に落ちることであり、そして敵の地に入れば（ダニエルがそうであったように）、イスラエルはその敵の奴隷となるというものです。

モーセがレビ記26章を記したとき、古代イスラエルはちょうどエジプトの奴隷状態から解放されたばかりであり、25章に示された奴隷に関する原則は祝福か呪いのいずれかをもたらすものだった。古代イスラエルはヨベルの規定を決して実践せず、ついには北王国も南王国も、ダニエルが「モーセの呪い」と呼んだものの成就として、「七たび」にわたって散らされることになった。

エジプトでの奴隷状態から始まった神とイスラエルの契約関係は、アッシリアとバビロンへの隷属によって終わった。北王国に対する「七つの時」は1798年に終わり、南王国に対する「七つの時」は1844年に終わった。これら二つの「七つの時」の起点は、イザヤ書第七章において、紀元前742年にイザヤがユダの王アハズに告げた六十五年の預言によって示されている。

アラムの頭はダマスコ、ダマスコの頭はレツィン。六十五年のうちにエフライムは打ち砕かれて、もはや民ではなくなる。エフライムの頭はサマリヤ、サマリヤの頭はレマリヤの子。もしあなたがたが信じなければ、必ず堅く立つことはできない。イザヤ書7:8、9

イザヤは、紀元前742年にその預言が示された時点から「65年以内」に北王国が打ち砕かれると特定していた。19年後の紀元前723年、イスラエル北王国はアッシリアの王によって奴隷にされ、さらに46年後の紀元前677年には、バビロンの王がユダ南王国を奴隷にした。65年の預言は、6つの歴史的な道標を生み出す。第一は、預言が示された紀元前742年である。19年後の紀元前723年、北王国はアッシリア人によって奴隷にされた。46年後の紀元前677年、南王国はバビロニア人によって奴隷にされた。紀元前723年に始まった最初の2520年は1798年に終わった。ついで、紀元前677年に始まった2520年は1844年に完結した。1844年からさらに19年延びて1863年に至り、全体の預言的構造が完成した。というのも、アルファとオメガがその預言的構造の開始に19年を刻んだのであれば、その終わりに達するにも19年が必要だからである。

古代イスラエルはエジプトの奴隷状態から解放されたが、不従順のゆえに北王国と南王国の双方が再び奴隷状態に戻された。預言は古代の文字通りのイスラエルの預言史から現代の霊的イスラエルへと及び、そうすることで、すべての預言的な道標の主題は奴隷状態である。

イザヤ書7章の預言は、北と南の間で差し迫った内戦が指摘されていた時、紀元前742年に、預言者イザヤによって邪悪な王アハズに示された。アハズの治めていた南王国は、古代イスラエルにおける文字通りの「栄光の地」であった。1798年、聖書預言における霊的な「栄光の地」が、聖書預言の第六の王国として支配し始めた。1844年に文字通りの「栄光の地」に対する「七つの時」が終わったとき、アハズ王の時代の歴史と同様に、差し迫った内戦があった。1844年までに、政党の分裂と同盟が繰り返される混乱は、ほぼ完全に二つの政治的立場へと収束していた。奴隷制をめぐる争いは、民主党が奴隷制賛成、共和党が奴隷制反対であった。1798年から1860年の南北戦争の開戦に至るまでに、政党が二つの陣営へと発展していく過程は定着していた。

アハズは文字通りの栄光の地を表し、したがって霊的な栄光の地をも型どっていた。アハズの歴史は、紀元前742年にその預言が発せられた預言的な歴史を型どっており、ゆえにその預言が終わりを迎えた歴史も型どっている。初期の歴史において、十部族から成る北王国は、南の二部族の上に神が据えた統治に抗議して、その二部族から分離した。北の十部族はシリアと連合を結び、これは南部連合と、シリアを象徴的に表すある勢力との同盟を型どっている。

この簡潔な要約は、レビ記二十六章の「七倍」が、従順には祝福を、不従順には奴隷という「のろい」を定める、契約に基づく約束であることを示している。北王国と南王国は、奴隷状態から救い出されて一つの国として共に始まったが、結局それぞれの終わりには再び奴隷状態へと戻されることになった。

奴隷に関するそれらの預言の締めくくりにあたる六十五年は、北と南の内戦のまさに真っ只中、霊的な栄光の地にいる霊的イスラエルのうちに終わりを迎えた。内戦の敵対者は、連合を形成し、反対側の王国に置かれていた神によって樹立された政府から離脱した王国であった。

1798年から内戦に至るまで、共和主義の号角は、奴隷制をめぐる問題の両側を代表する二つの政治的敵対勢力を生み出す過程をたどった。奴隷制の存続を図った奴隷制擁護の敵対勢力は、その戦いに敗れた。

1798年から南北戦争に至るまで、プロテスタントの角は、奴隷制をめぐる問題の両側を代表する二つの宗教的対立陣営を生み出す過程を経た。奴隷制に関する預言の当初の解釈を維持しようとした奴隷制擁護の陣営は、その戦いに敗北した。

1863年、共和主義の号角は奴隷制を拒絶することに成功した。

1863年、プロテスタンティズムの号角は奴隷制の預言を退けることに成功した。

そうすることで、彼らはその時代のエリヤであったミラーの働きを退けた。同様に、彼らはその時代の礎であった「モーセの誓い」も退けた。こうしてモーセとエリヤは退けられたが、結局2001年9月11日に再び戻ってきた。

アルファでありオメガである驚くべき言語学者は、『不思議な数を数える者』パルモニであると御自身が宣言された「モーセの誓い」の時の預言全体にわたり、御自身の神的な署名を記した。もしあなたがたが信じないなら、必ず堅く立つことはできない。